

令和8年度 学力向上のための重点プラン【中学校】 **新宿区立四谷中学校**
 ■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

授業作り	重 点	基礎・基本の充実を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びで創る授業の実現
環境作り		・ICT機器・タブレット端末の使用を意識した、授業スタンダードの確立 ・デジタルドリル等のデジタル教材の活用

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	昨年度の新宿区学力定着度調査の結果から、以下の分析を行った。すべての項目で区平均を上回っている。しかし、「書くこと」の数値は全体的に見て低い傾向がある。継続的な指導を引き続き行う必要がある。	・日々の授業を大切にし、各領域について満遍なく指導をしていき、確実な定着を図っていく。 ・協働学習を通じて、基礎・基本の充実を図る。 ・単元末では「書く」作業を充実させ、抵抗感をなくすとともに、書く力の形成を図る。	・生徒の意欲がわくような授業展開をしていく。 ・評価規準を明示し、こまめに課題を与える。 ・「書く」作業をベースとし、スピーチなどの発表活動や協働学習を日常的に数多く行う。 ・タブレット端末を使用し、視覚的な要素も含めて自己表現力や発表力を付けさせる。 ・漢字を書く力を増やすために、辞書をひく習慣を付けさせる。 ・漢字の読みや書きについてはドリルで復習を図る。
数学	昨年度の新宿区学力定着度調査の結果から、以下の分析を行った。 3学年については、すべての項目で区平均を上回っている。領域別では、関数が、区の平均より+1.7ポイントであり、この項目を伸ばしていく必要がある。 2学年については、正答率が区平均と比べて高く、特に、基礎的な内容については+8.7ポイントとなっており、基本的な計算や知識が定着しているといえる。応用については、さらに伸ばしていく必要がある。	・習熟度別授業の特性を生かし、基礎力が定着している生徒には自分の考えを表現する時間を十分に設ける。一方で、基礎・基本が十分に定着していない生徒については、デジタルドリル等を活用して、反復練習の機会を日々の授業でも設ける。 ・基礎的な計算能力を伸ばし、思考力・判断力・表現力につながる力を付けさせる。 ・図形やデータの活用分野については、日常生活で活用できる場面などを授業の導入に活用したり、課題を視覚化したりして、生徒が興味・関心をもちやすいように工夫する。	・自分自身の考えをまとめる時間を十分に確保し、協働的な活動の時間を設ける。 ・小テストなどを定期的に行い、基礎的な知識・技能の定着を図る。

理 科	昨年度の新宿区学力定着度調査において、以下の分析を行った。 2 学年では、区平均を 1.7 ポイント下回っているが、生物分野では 3.3 ポイント上回っている。 3 学年では、区平均を 3.6 ポイント下回っている。特に化学分野での数値は低く課題となっている。	・基礎・基本の充実を目指し取り組みを進めるとともに、協働的な学習を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・章末、単元末に確認テストを行い、学習内容の定着度を確認しフィードバックにつなげていく。	・課題を設定し話し合う学習を通して、科学的な思考力の育成を目指す。 ・ドリルパークなどのデジタル教材等を用いた学習を計画的に行い、基礎・基本の定着を図る。 ・2 学年の生物分野、地学分野と 3 学年において、重要語句の反復学習を授業開始時に行う。
社 会	昨年度の新宿区学力定着度調査の結果から、以下の分析を行った。 2 学年は応用力が区の平均よりも低くなっている。 3 学年は応用力に比べ、基礎力が低くなっている。	・社会的事象を理解するだけでなく、なぜそのようになったかという因果関係についても追究する力を付ける授業づくりをしていく。 ・特に 2 学年では、授業内で知識・技能を活用し、思考・判断・表現する機会を多く設ける。 ・特に 3 学年では、基礎を復習する機会を多く設ける。	・発問やワークシートの工夫 ・ドリル(紙とデジタルとの併用)の活用 ・グループによる活動型授業 ・実際の社会につながる授業
英 語	昨年度の新宿区学力定着度調査において、以下の分析を行った。 2 学年は、「書くこと」が区の平均と同等であった。それ以外はすべて+3.0 以上となっており、書くことの力の育成が求められる。 3 学年は、知識・技能が+1.0、「読むこと」が+0.2 であったが、それ以外はすべてマイナスの数値であった。まず基礎知識の定着が急務である。	・基礎知識、文法事項の定着 - どの技能においても、言語の基礎知識は必要不可欠である。発話や書き取り等様々な面からアプローチする必要がある。 ・「書く」力の向上と自己表現をする取組の強化 ・「読む」力の向上と応用力の定着	・繰り返し発音させることで、新出単語や基礎単語を定着させる。また、単元テストを通じて知識の定着度を図る。 ・「書く」力を伸ばすために、自分の意見や考えを書く機会を増やしていく。 ・「聞く」力を伸ばすために、ALT と話す機会を増やしていく。